

# 住宅用家屋証明申請書

租税特別措置法施行令

- (イ) 第41条
  - 特定認定長期優良住宅または認定低炭素住宅以外
    - (a) 新築されたもの
    - (b) 建築後使用されたことのないもの
  - 特定認定長期優良住宅
    - (c) 新築されたもの
    - (d) 建築後使用されたことのないもの
  - 認定低炭素住宅
    - (e) 新築されたもの
    - (f) 建築後使用されたことのないもの
- (ロ) 第42条第1項（建築後使用されたことのあるもの）
  - (g) 第42条の2の2に規定する特定の増改築等がされた家屋で宅地建物業者から取得したもの
  - (h) (g) 以外

の規定に基づき、下記の家屋 平成  
令和 年 月 日 {(ハ) 新築  
(ニ) 取得} がこの規定に  
該当するものである旨の証明を申請します。

令和 年 月 日

(あて先) 大阪狭山市長

申請者 (代理人)

㊞

申請者の住所			
申請者の氏名			
家屋の所在地			
家屋番号			
取得の原因 (移転登記の場合)	(1) 売買	(2) 競落	
申請者の居住	(1) 入居済	(2) 入居予定	
床面積	㎡	構造	造
区分建物の耐火性能	(1) 耐火または準耐火	(2) 低層集合住宅	
工事費用の総額 (ロ)(g)の場合に記入)	円	売買価格 (ロ)(g)の場合に記入)	円

**備考**

- 1 { } 中は、(イ) または (ロ) のうち該当するものを○印で囲んでください。(イ) を囲んだ場合は、さらに (a) ~ (f) のうち該当するものを○印で囲み、(ロ) を囲んだ場合は、さらに (g) または (h) のうち該当するものを○印で囲んでください。
- 2 [ ] 中は、1で(イ)の(a)(c)または(e)を囲んだ場合は新築の日を記載し、(ハ)を○印で囲んでください。また、1で(イ)の(b)(d)(f)または(ロ)を囲んだ場合は所有権移転の日を記載し、(ニ)を○印で囲んでください。
- 3 「取得の原因」の欄は、移転登記の場合に限り、(1) または (2) のうち、該当するものを○印で囲んでください。
- 4 「申請者の居住」の欄は、(1) または (2) のうち該当するものを○印で囲んでください。
- 5 「構造」の欄は、建築後20年超25年以内に取得された家屋について証明を申請する場合に記載し、当該家屋の登記簿に記載された構造を記載してください。
- 6 「区分建物の耐火性能」の欄は、区分建物について証明を申請する場合に、(1) または (2) のうち該当するものを○印で囲んでください。なお、建築後使用されたことのある区分建物の場合、当該家屋の登記簿に記載された構造が、石造、れんが造、コンクリートブロック造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造のときは(1)を○印で囲んでください。
- 7 「工事費用の総額」の欄は、(ロ)の(g)を囲んだ場合に限り、租税特別措置法施行令第42条の2の2第2項第1号から第7号までに規定する工事の種別のいずれかに該当する工事の合計額を記載してください。
- 8 「売買価格」の欄は、(ロ)の(g)を囲んだ場合に限り、当該家屋の取得対価の額を記載してください。

# 住宅用家屋証明書

租税特別措置法施行令

- (イ) 第41条
  - 特定認定長期優良住宅または認定低炭素住宅以外
    - (a) 新築されたもの
    - (b) 建築後使用されたことのないもの
  - 特定認定長期優良住宅
    - (c) 新築されたもの
    - (d) 建築後使用されたことのないもの
  - 認定低炭素住宅
    - (e) 新築されたもの
    - (f) 建築後使用されたことのないもの
- (ロ) 第42条第1項（建築後使用されたことのあるもの）
  - (g) 第42条の2の2に規定する特定の増改築等がされた家屋で宅地建物業者から取得したもの
  - (h) (g) 以外

の規定に基づき、下記の家屋〔平成 令和 年 月 日 〔(ハ) 新築 〔(ニ) 取得〕〕がこの規定に該当するものである旨を証明します。

申請者の住所	
申請者の氏名	
家屋の所在地	
家屋番号	
取得の原因 (移転登記の場合)	(1) 売買 (2) 競落

令和 年 月 日

大阪狭山市長 古川 照人